

第 2 検討部会 会議録

会議の名称	第 9 回 第 2 検討部会
開催日時	平成 19 年 11 月 26 日 (月) 18 時 30 分から 20 時 30 分
開催場所	川口市職員会館 2 階 講座室 A
出席者	(部会長) 平副委員長 (委員) 小川委員、永瀬委員、大関委員、立石委員、石井 (邦) 委員、 河合委員、篠田委員、高橋委員、吉田委員
会議内容	第 1 回運営調整部会の議論概要 議会の現状、市民と議会との関係 川口市はどのようなまちを目指すのか
会議資料	・ 第 1 回運営調整部会の概要 ・ 議員研修プログラムについて ・ 川口市はどのようなまちを目指すのか (委員からの意見)
発言内容	第 1 回運営調整部会の議論概要 ・ 各検討部会で検討すべき事項は以下の 3 点のとおり。 運営調整部会のあり方について 検討すべき内容について 副部会長の選任方法について ・ 次回までに委員から意見を出してもらい、次々回の部会である程度とり まとめを行い、第 2 回運営調整部会には第 2 検討部会から出た意見を提 出する。 (参加委員からの意見) ・ 各検討部会で委員が費やしている労力を考えると、広報・広聴といった 役割などを担う専門的なチームを必要最小限の範囲で新たに設けたらど うだろうか。 ・ 現段階では、広報・広聴の具体的な内容については未定だが、その役割 としてまちかど懇談会やパブリック・インボルブメント (*) といった 方法を用いて市民の声を吸い上げることが考えられる。 ・ 市にも広報活動などの専門的な部署、委員会があると思う。その場合、 運営調整部会で新たに設ける専門チームが広報活動の全てを担うのでは なく、市役所内の部署、委員会に担ってもらってはどうか。 ・ 市では様々な PR 活動をおこなっているが、十分な効果を得ていないこ とから、自治基本条例の PR 活動についても十分な効果を得られること は難しい。そのため、検討部会での議論を充実し、その中で委員の意見 を上手く引き出すことが専門的なチームを設けることよりも重要ではな いか。 ・ 専門的な組織を新たに設けると、時間的な制約で負担が大きいのではな いか。

- ・運営調整部会では幅広い意見が出されており、委員の意見をとりまとめるのが大変だという印象を持った。

(*) パブリック・インボルブメントとは

行政の計画・事業の構想企画段階から市民が参画できる機会を設け、そこでの議論を通じて政策形成の過程を行政と市民が共有しながら、市民などの意見を踏まえた意思決定を行うとともに、その結果について公表する一連の手続きのこと

議会の現状、市民と議会との関係

(議員と政党の関係について)

- ・議員は所属政党からの独立性を持つことによって、市民の声を聞くことができるのではないかと。
- ・川口市議員は他の地域と比べて政党色が薄いという特色がある。また無所属議員でも会派に所属している場合もあり、地域によっても政策に対する見解の違いなどの理由から会派が分かれている。
- ・川口市議会は政党色の薄い地域密着型であり、わけ隔てなく市民の声を聞くことに議員としての存在価値がある。
- ・政党に所属していても、そのことを明らかにせずに立候補する者もいる。

(選挙に対する無関心層について)

- ・選挙に行かない人の割合が多いことから、無関心層の意識を考慮してみる必要がある。
- ・マンション住民の中には、基本的に選挙に無関心であり、誰に入れていいのか分からなくて投票から離れてしまう人が多いと聞いている。

(市民と議会の関係について)

- ・市民と議会が同じ立場での協力関係は存在するのか。
- ・議員の必要な役割として、行政が十分行っていない広聴機能を担って市民からの声を拾い上げて行政に伝え、行政の行っていないことを実現することである。
- ・市民に対しての啓発活動は、議員にとっての必要な役割である。例えば川口では過酷な勤務状況によって、特に小児科の病院勤務医が不足傾向にある。このため、病状が深刻になって夜間診療を受ける前に日中の早期に診察を受けてもらうよう市民に訴えかけている。
- ・全国的に傍聴の機会を設けるために土日開催してもほとんど聞きに来てくれる人がおらず、元の平日開催に戻るものがほとんどである。
- ・議員と市民の役割が互いに侵食しあうこともある。その場合、議員の意識はどうだろうか。
- ・議員が携わっている課題は非常に多い。そのため議員としては、市民に協力してもらうことは賛成であり、これからの理想的な姿だと考えてい

る。

- ・市民が議員の役割を侵食したとしても議員の地位が低下するわけではない。市民に役割を担ってもらうことで、議員がより重要な仕事に取り組めることに繋がるのではないか。
- ・町会では議会事務局に要望をだす場合、口頭よりも文書で提出する方が行政側の回答がくる機会が多い。
- ・参加している市民団体では、行政の対応が不十分である場合でも議員に相談する機会がない。
- ・議員が市民の声を身近に聞く場として、クリーンタウン作戦のようなイベントを活用してもらいたい。

川口市はどのようなまちを目指すのか

1) 理想の地域像(目的)

【安全・安心】

- ・心身ともに安全・安心に住むことのできるまち
- ・災害に強いまち
- ・安全・安心の街づくりの為に情報公開がおこなわれているまち

【人間関係の構築】

- ・地域社会が安定していて、隣人関係が豊かであったり、町内会などを通じて移住者が地域に早く溶け込める社会

【多様な市民】

- ・外国人、短期滞在者など市民の多様性に配慮したまち
- ・社会的な弱者を立ち直らせるまち
- ・外国人が社会に参加するまち
- ・子供から高齢者まで幅広く住みやすい街

【川口の特性】

- ・緑の多い街
- ・河川を愛する街
- ・鑄の街
- ・緑や文化財、伝統を大切にしながら都会的なセンスを併せ持った街
- ・修理技術を持った街

【町内会】

- ・町会の活性化が進む街
- ・住民の多様性に柔軟で開かれた町会組織
- ・町内会ごとに毎月の楽しみ(例えば歳時記)を作って皆が楽しめる街

【にぎわい・活力】

- ・にぎやかで明るい街
- ・商業施設や娯楽施設がある街
- ・ベッドタウンのイメージを脱却して、誰もが楽しく住める街

<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地の商業施設が活性化している街 ・ 中心市街地が高齢化社会に対応した街 ・ 文化的な活動が活発な街 <p>【地域格差に配慮】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内の地域差に配慮した街 <p>【今の川口に足りないものを補う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶のある街 <p>2) 理想の川口市を実現するための仕組み(手段)</p> <p>【目標設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長期的な目標を設定する。当面は委員会の設置などによって継続的な街づくりを市民に認知してもらうとともに、市民の参加できる仕組みを作る。 <p>【市民の力を活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人口が多いことから、中高年世代の智慧が生かされ、力を存分に利用し街づくりをおこなう。 <p>【学校の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が誇りを持てる継続的な環境を作る。 <p>【情報公開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政の情報公開制度を整備する。 ・ 行政が適切な範囲で情報を公開するとともに、住民に対する広報を整備する。 <p>【市民参加・協働】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健全な協働が成立している街を作る。 ・ 活発な市民参加を促進する。 ・ 生き生きした市民、行政、議会を作る。 ・ 議会と市民との連携を進める。 ・ 市民活動のネットワークを作る。 ・ 市民の考えや意見を交換できる場所を設けて、行政に早く市民の声を反映させる。 ・ 地域活動すべてに市民が参加できる街を作る。 <p>【活動拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館がもっと地域の方々全員が利用でき、街の拠点として活用する。 ・ 不正が生じないための委員会を作り、東京の隣地という特性を生かした福祉施設を導入する。 <p>【地場産業の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工業用地の拡大・整備をおこなって地場産業を活性化し、労働力を確保する。 <p>【地域格差に配慮】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅周辺に集中している文化、教育、行政施設を全市に分散する。 【多様な組織】 ・ 各年代の人々が遊びや文化活動を一緒におこなえるような組織(町内会、公民館、NPO など)が豊富に存在する。 3) 関連事項(あいさつの重要性について) ・ 理想の地域像に対して現在足りないものを補うことは重要であり、川口市にはあいさつの重要性を盛り込むことが望まれる。 ・ 挨拶は誰でもできる上に、犯罪の抑止力などの効果があり重要な行為である。市民活動を広く展開していく上で、挨拶は協働の一步として人間関係を深める重要な行為となる。 ・ 小学校の頃はあいさつを厳しく教えられてきたので、挨拶がなくなったという感覚がない。その判断基準はどういうものになるのか確認する必要がある。 ・ 川口は転入者が多いことが、あいさつが少ない原因の一つだと思う。 ・ あいさつしても返事がもらえないことがある。あいさつしない子供が多いというのは、挨拶しない大人がいることに関係がないだろうか。 ・ かつては地元中学の風紀が悪かったが、今はあいさつについてしっかり取り組んできたせいか、学校の風紀が良くなった印象がある。この取り組みを市全体の取り組みとして生かせないだろうか。 <p style="text-align: center;">次回の議論について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協働に関するイメージ、要素 ・ 参加・意志決定のルール
次回以降日程	<p>第 10 回検討部会 12 月 10 日(月) 18 時 30 分～ 職員会館 2 階 講座室 A</p> <p>第 11 回検討部会 1 月 7 日(月) 18 時 30 分～ 職員会館 2 階 講座室 A</p>